

# 国際平和拠点ひろしま構想推進計画 (計画期間：2019～2021 年度)

平和推進プロジェクトチーム  
平成 31 年 3 月

## 1 推進計画

広島県は、国内外の有識者で構成する国際平和拠点ひろしま構想策定委員会から、平成 23 年 10 月に「国際平和拠点ひろしま構想」の提言を受けた。この構想は、人類史上初の原子爆弾により破壊され、その廃墟から復興した広島の使命と役割を示したものである。

### 構想で提言された広島の役割

- ① 核兵器廃絶のロードマップへの支援、
- ② 核テロの脅威の削減、
- ③ 平和な国際社会構築のための人材育成、
- ④ 核軍縮と平和構築のための研究集積、
- ⑤ 持続可能な平和支援メカニズムの構築

広島県では、国際平和拠点ひろしま構想推進委員会を設置し、広島市や関係団体等と連携し、構想の具体化に取り組んでいるところであり、平成 24 年度に、構想による取組の方向性を示すものとして、ガイドラインを策定し、平成 25 年度には、ガイドラインに基づき、当面の取組を具体化する計画として、「国際平和拠点ひろしま構想推進計画」(計画期間：平成 25 年度～平成 27 年度)を策定した。

今回、平成 28 年度策定計画(平成 28 年度～平成 30 年度)が終了することから、国際平和拠点ひろしま構想推進委員会での意見を参考にしつつ、平成 31 年度以降 3 か年の取組の計画を策定する。今後、取組の進捗状況を踏まえ、必要に応じ適時見直しを行うこととする。

### ■ 広島の 2 つのシンボル性

#### ★ 人類史上初の原子爆弾による破壊を経験した地としての「核兵器廃絶への信念」

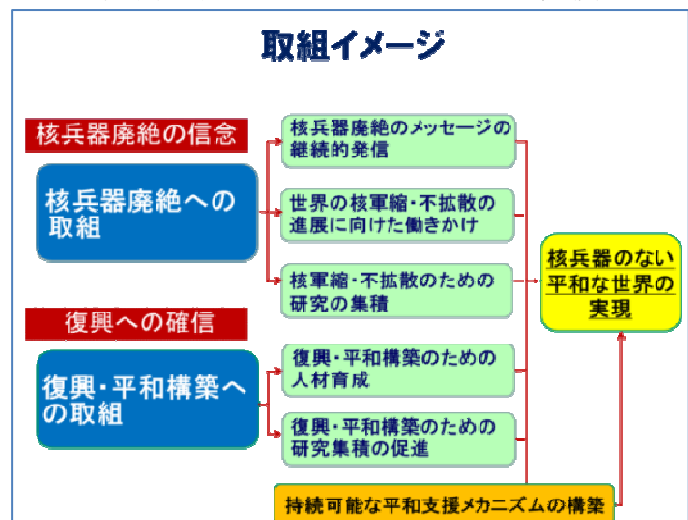
##### 【広島の強み】

- ・ 人類史上初の被爆体験とその実相を示すことによる「核兵器廃絶への信念」の共有

#### ★ 原子爆弾による廃墟から復興した地としての「復興への確信と未来への希望」

##### 【広島の強み】

- ・ 廃墟からの復興経験と今の広島の姿を示すことによる「復興への確信と未来への希望」の共有と、その復興プロセスや原爆被爆者医療を通じた知見の蓄積



## 2 これまでの取組と核兵器のない平和な国際社会の実現に向けて

広島は、核兵器のない平和な世界の実現は、広島の使命であると認識し、「国際平和拠点ひろしま構想」に基づき、その実現に向けて、核兵器廃絶と復興・平和構築のための取組を包括的に進めている。

核兵器廃絶に向けては、これまで、各界指導者の被爆地訪問が実現するよう、NPT運用検討会議などの機会を捉えて、広島訪問を働きかけてきた。平成28年5月に実現したオバマ大統領の訪問は、米国現職大統領の初めての被爆地訪問として、核廃絶に対する国際的な機運を大きく高める契機となった。

また、海外の世界的な研究機関と連携協定を締結し、共同研究を実施するなど、広島での平和研究機能の強化に取り組むとともに、各国の核軍縮・不拡散の取組状況をまとめた「ひろしまレポート」の作成・公表や、東アジア地域の核軍縮に焦点を当てた多国間協議の場である「ひろしまラウンドテーブル」の開催を継続して実施している。

復興・平和構築のための取組では、次代の国際平和貢献人材を育成するため、高校生を対象に、核軍縮や紛争解決等の国際的課題の学びを深める「グローバル未来塾inひろしま」や、海外及び県内の高校生等が国際平和について議論し、平和のメッセージを発信する「ひろしまジュニア国際フォーラム」を開催している。

あわせて、「国際平和のための世界経済人会議」を開催し、企業、国際機関、研究機関、NGO/NPOなど多様なステイクホルダーの参画を得て、平和の推進をSDGsの視点から議論し、理解を深めてきたところであり、こうした取組への期待から、広島県は、他の自治体をリードする自治体として、国からSDGs未来都市に選定された。

また、国連においては、核兵器禁止条約が賛成多数で採択されるとともに、採択に貢献した国際NGOのICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）がノーベル平和賞を受賞するなど、核廃絶に向けた国際世論が高まっている。

しかし、その一方で、核兵器廃絶に向けたアプローチをめぐって、核兵器国と非核兵器国との間の溝が一段と深まり、核軍縮に向けた具体的な進展が見られないことに加え、米国のINF条約の破棄表明により、核軍縮の機運が後退するなど、このままでは、核軍縮の歯止めがきかなくなるおそれがある。

核廃絶を巡る厳しい情勢の中で、核廃絶に向けたより確かな動きを作り出していくためには、核抑止による安全保障という固定観念からの脱却を核兵器国及び核の傘に依存する国々に促す必要がある。

また、広島が進める核廃絶の取組への賛同者を飛躍的に増加させることにより、市民社会や各界のリーダー、企業等多様な主体と協働して、各国政府への働きかけを強めていくことと併せて、取組を加速させていくため、世界中のNGO/NPO、市民社会、企業など様々な主体に対し、国際平和に貢献するコミュニティの形成を促し、CSRやBOPを包摂するSDGsビジネスの推進を図るとともに、国際平和構築の担い手が集うプラットフォームの形成を進める方策づくりが必要である。

## ■ ひろしま未来チャレンジビジョンに掲げる「目指す姿」と「目標」

(目指す姿)

世界で最初の被爆地として、平和に関する資源が集まり、平和のための活動が効果的に生み出され、核兵器のない平和な世界の実現が着実に進められるよう、具体的に貢献できる広島国際平和の拠点化が進展している。

(目標)

- 平和に関する人材、知識・情報、資金などを集積するための仕組みや環境の整備
- 国際平和拠点として広島の発信力を強化するための仕組みの構築

## ■ 本推進計画（2019年度～2021年度）で定める目標

世界各国の多様な主体と協働して、各国政府に、核兵器廃絶の働きかけが可能な状態を創出する。

このため、核抑止に替わる新たな政策づくりと広島取組への賛同者の拡大を進める。

### 3 行動の方向

#### 1 核兵器廃絶への取組

広島から、被爆の実相と核兵器廃絶のメッセージを世界に発信するとともに、核軍縮・不拡散プロセスを進展させる働きかけを進める。

##### (1) 広島からの核兵器廃絶のメッセージの継続的発信

###### 【目指す姿】

各国のリーダーをはじめとする世界の多くの人々に核兵器廃絶への信念を共有してもらい、核兵器廃絶の国際世論を高め、核兵器廃絶を現実化する。(広島市を中心とした取組)

###### 【主な方向性】

###### ○ 被爆の実相の伝承と核兵器廃絶の訴え

核兵器が使用されれば、熱線、爆風、放射線により、実際にどのように甚大で悲惨な状況が引き起こされるのかという被爆の実相について、各国のリーダーに具体的な認識を深めてもらい、核兵器に対する強い否定の意識形成を図る。また、一般の人々にも同様の意識を持ってもらうことで国際世論を喚起し、核兵器廃絶への実際の行動を促進する。とりわけ、被爆75周年となる2020年は、東京オリンピック・パラリンピックも開催されることから、スポーツ界をはじめ各界のリーダーに広島訪問を呼びかける。

###### 【今後の主な取組】

###### ○ 被爆の実相の伝承と核兵器廃絶の訴えの継続(2019～2021年度)

###### ○ 各国の政府関係者・機関や国際世論形成に影響力を持つ者・団体等による広島訪問の推進

・政治指導者等の来日の機会を捉えた広島訪問実現への働きかけの強化(2019～2021年度)

・東京オリンピック・パラリンピック開催のため、来日するスポーツ界をはじめとする各界のリーダーへの広島訪問実現への働きかけの強化(2019～2021年度)

##### (2) 世界の核軍縮・不拡散のプロセス進展のための働きかけ

###### 【目指す姿】

国際社会における核兵器廃絶に向けた具体的なプロセスを進展させる。

###### 【主な方向性①】

###### ○ 国際社会の既存の核兵器廃絶への取組促進の働きかけ

核兵器廃絶に向けた国際社会の既存の取組について、NPT等の合意事項の確実な遵守などそのプロセスの進展を働きかけ、核兵器廃絶への実際の行動の進展を目指す。

###### 【今後の主な取組①】

###### ○ 各国の核軍縮等の取組状況を調査・分析・評価する「ひろしまレポート」の充実

・国連機関、国際機関や国内外の大学・研究機関、NGO等との連携体制の構築(2019～2021年度)

・国際会議の場等における各国の政府関係者や国際世論形成に影響力を持つ者・

団体等へのレポートの配付等による普及促進（2019～2021年度）

- ・ レポートによる分析をテーマに、米国の主要なシンクタンクと共同で核軍縮フォーラムを開催して、発信力を強化（2019～2020年度）
- ・ 一般市民の核廃絶への関心を喚起して、広島を取組への参画を促していくため、平易な記述による、よりわかりやすい冊子を作成（2019～2021年度）

#### 【主な方向性②】

- 多国間の新たな核軍縮・不拡散の取組の働きかけ  
米ロだけでない多国間での政府レベル（トラックⅠ）での核軍縮会議の実現に向けて、まず、非政府レベル（トラックⅡ）での多国間の議論の場の実現を図ることにより、核軍縮・不拡散交渉の進展を目指す。

#### 【今後の主な取組②】

- 核軍縮等をテーマとした多国間協議の場「ひろしまラウンドテーブル」の充実  
・ 議論の土台となる調査・研究の実施（2019～2021年度）  
・ 分科会設置等による研究を踏まえ、NPT運用検討会議などに向けた提言の作成（2019～2021年度）

#### 【主な方向性③】

- 核軍縮・核セキュリティのための研究の促進と政策提言  
核軍縮・核セキュリティについて、安全保障論的なアプローチ、ゲーム理論を活用した分析的なアプローチ、核兵器禁止条約に代表される人道主義的なアプローチ等の研究を進めることにより、核軍縮や核廃絶に向けて理論的裏付けを強化して、NPT運用検討会議などに向けた提言力を強化する。

#### 【今後の主な取組③】

- 核抑止論に頼らない新たな安全保障理論の構築に向けた政策提言  
・ 核廃絶に向けたプロセスを着実に進展させるため、「(仮称)核軍縮研究に係る国際ネットワーク会議」の設置による研究機関相互のネットワークづくりを進め、核軍縮研究を強化（2019～2021年度）  
・ NPT運用検討会議などに向けて、核抑止に頼らない新たな安全保障理論の構築のための政策提言づくりを強化（2019～2021年度）
- 国際会議の広島開催誘致  
・ 核軍縮・核セキュリティ分野における国際会議やシンポジウム等の広島誘致の促進（2019～2021年度）

#### 【主な方向性④】

- 核兵器廃絶の担い手となる人材の育成  
広島で、被爆の実相に触れ、核廃絶に向けた具体的な行動を起こすための実践力を養う機会を提供して、将来の国連、国際機関、国際的NGOを担う人材を育成する。

#### 【今後の主な取組④】

- 国際的NGOと連携した人材育成講座の開講  
・ 国際的NGOと連携して、「(仮称)広島核廃絶アカデミー」を開講し、核兵器廃絶への具体的な行動が取れるリーダーを養成（2019～2021年度）

## 2 平和構築のための取組

広島における、平和構築のための人材育成と研究集積を、復興を軸にさらに拡大するとともに、平和のための対話の場づくりを進める。

### (1) 復興・平和構築のための人材育成

#### 【目指す姿】

広島の被爆・復興経験を生かしての、平和構築の専門家や、復興マインドを持った社会開発各分野の専門家の人材育成を行うことにより、紛争後の地域における安定的な社会の構築に貢献し、テロリズムや核兵器拡散の抑止につなげる。また、広島の実爆被爆者医療や放射線障害の研究成果を生かした放射線被ばく者医療等の専門家の人材育成等を進め、放射線事故及び災害への医療対応に貢献する。

#### 【主な方向性①】

##### ○ 平和構築のための人材育成

広島が提供できる「復興への確信と未来への希望」を生かして、平和構築の専門家や、復興マインドを持った社会開発各分野（教育、保健医療、都市計画など）の専門家など、平和で安定的な社会を実現するために必要な多様なスキルを有した人材の育成を目指した取組を進める。

#### 【今後の主な取組①】

##### ○ ユニタール・JICAとの連携

・ ユニタールやJICAによる平和構築事業等に、ひろしま復興プロセス研究の成果を活用するとともに、新たなコース・セミナーの設置を働きかけるなど人材育成コースの充実・拡充（2019～2021年度）

##### ○ 外部資金を活用した人材育成事業の実施

・ 県内関係機関の相互連携による新たな復興・平和構築支援人材育成事業として外部資金（JICA）を活用したフィリピン・ミンダナオ支援（自治体復興人材育成）事業やカンボジア復興支援（持続可能な社会のための教育）事業を実施（2019～2021年度）

##### ○ 県内大学等との連携

・ 県内関係機関等（県内大学、研究機関、国際機関等）における広島の復興・平和構築研究事業成果（報告書、小冊子）の活用促進（2019～2021年度）  
・ 国際平和貢献人材を輩出するため高校生を対象としたプログラム「グローバル未来塾 in ひろしま」の実施（2019～2021年度）  
・ 世界の高校生と日本人高校生が国際平和について討議を行い、平和のメッセージを発信する「ひろしまジュニア国際フォーラム」の開催（2019～2021年度）  
・ インターネットを活用し、被爆の実相や核をめぐる国際動向を学ぶことのできるオンライン学習講座「広島から平和を考える」の配信（2019～2021年度）

#### 【主な方向性②】

##### ○ 放射線事故及び災害に対応できる医療人材等の育成

原爆被爆者医療や放射線障害の研究成果を生かして、世界各地で放射線事故及び災害に対応できる医療人材等の育成を進める。

#### 【今後の主な取組②】

##### ○ 放射線事故及び災害に対応できる医療人材等育成の拡大

・ 引き続きHICARE（放射線被曝者医療国際協力推進協議会）を通じた大学等との連携により、IAEA（国際原子力機関）と協働した国際医療研修や共同研究の実施等による放射線事故及び災害に対応できる医療人材等の育成

(2019～2021 年度)

- ・ H I C A R E を通じた I A E A への医学生派遣や高等学校での出前講座実施による次世代を担う人材の育成を促進 (2019～2021 年度)

## (2) 復興・平和構築のための研究集積の促進

### 【目指す姿】

広島での復興プロセスの研究など、復興・平和構築関連の研究の集積を進め、世界の復興・平和構築関連研究の進展に貢献する。

### 【主な方向性】

- 復興・平和構築関連の研究集積  
広島での復興プロセス研究を社会の各分野毎に進めるとともに、幅広い平和構築関連の研究集積を目指す。

### 【今後の主な取組】

- ひろしま復興プロセス研究事業の実施
  - ・ 人材育成に活用できるよう報告書の教材化を進めるとともに、社会的文化的な背景が異なる国々の復興にも活用できるよう国際的な比較方法を検討 (2019～2021 年度)
  - ・ 県内関係機関等 (県内大学, 研究機関, 国際機関等) における広島の復興・平和構築研究事業成果 (報告書, 小冊子) の活用促進 (2019 年～2021 年度) (再掲)
- 復興・平和構築研究集積の促進
  - ・ 県内の平和関連の研究・教育機関による「ひろしま平和研究・教育機関ネットワーク」における関係機関相互の連携の強化を図るとともに、研究集積に必要な対策等を検討 (2019～2021 年度)

## (3) 平和の対話の場の提供

### 【目指す姿】

広島で平和のための対話の場の提供に取り組み、核兵器のない平和な世界実現への取組や、紛争解決に向けた取組の進展に貢献する。

### 【主な方向性】

- 平和の対話の場の提供  
広島で平和に関する国際会議を開催することや、紛争当事者等の対話の場を持つことの意義と有効性をアピールし、平和に関する対話の場所としての広島の認知を高め、誘致を進める。

### 【今後の主な取組】

- 国際会議の広島開催誘致
  - ・ 核兵器廃絶の取組と連携し、平和に関する国際会議の誘致を促進 (2019～2021 年度)
- 対話の場, 和平対話事業協力
  - ・ J I C A 等による和平対話を含む平和構築事業への協力等を通じ、平和に関する対話の場所としての広島の認知を高めるとともに、J I C A や広島大学等の取組を通じたアジア地域の紛争解決関係者とのネットワーク化を促進 (2019～2021 年度)

## ☆ 持続可能な平和支援メカニズムの構築

平和の推進のための新たな活動を効果的に生み出すために、広島シンボル性を生かして、世界の人材、知識・情報、資金などの資源を集積して、持続可能な平和支援メカニズムの整備を進める。

### 【目指す姿】

世界から人材、知識・情報、資金などの資源を集積して、平和活動の継続的な支援メカニズムを構築し、世界の平和活動の進展に貢献する。

### 【主な方向性】

#### ○ センター機能の強化・整備

世界から人材、知識・情報、資金などの資源を集積し、広島国際平和の拠点性を高める、事業推進主体としてのセンター機能を整備する。

とりわけ、被爆75周年となる2020年に、記念イベントを開催して、核兵器廃絶に向けた機運を高める。

[必要なセンター機能]

- ・核軍縮・核廃絶に貢献する政策提言のコーディネート機能
- ・広島の平和の取組への賛同者の拡大を可能とする機能
- ・オンライン平和講座などの教育・人材育成機能

### 【今後の主な取組】

#### ○ 持続可能な平和支援メカニズムの実現に向けた取組

- ・ひろしまジュニア国際フォーラムの開催（2019～2021年度）〔再掲〕
- ・経済界における、平和に対する機運醸成を高めるため、「国際平和のための世界経済人会議」や起業推進ネットワークの形成を推進（2019～2021年度）
- ・世界的な核軍縮に関する会議における広島の取組の発信（2019～2021年度）

#### ○ 核抑止論に頼らない新たな安全保障理論の構築に向けた政策提言〔再掲〕

- ・核廃絶に向けたプロセスを着実に進展させるため、「(仮称)核軍縮研究に係る国際ネットワーク会議」の設置による研究機関相互のネットワークづくりを進め、核軍縮研究を強化（2019～2021年度）
- ・NPT運用検討会議などに向けて、核抑止に頼らない新たな安全保障理論の構築のための政策提言づくりを強化（2019～2021年度）

#### ○ ウェブを活用した平和人材育成プラットフォームの構築

- ・世界の若者へ、広く、平和について学ぶ機会を提供するため、英語版オンライン学習講座を発信（2019～2021年度）

#### ○ ウェブサイトの構築

- ・広島の情報を一元化して提供することと併せて、コミュニティ機能等を確保することにより、広島の取組への賛同者を拡大して、国内外の様々なステークホルダーの参画とパートナーシップを促進（2019年度）

#### ○ 資金の獲得と取組の重点化・継続的な見直し

- ・広島が、国際平和拠点となり、その使命と役割を果たすための資金を国内外から幅広く獲得するための仕組みづくりを進めるとともに、限りある資源を最大限活用するため、取組の質的・量的な重点化と見直しの実施（2019年度）

#### ○ 賛同者拡大のための2020年（被爆75周年）記念行事の開催

- ・被爆75周年となる2020年に、核兵器廃絶に向けた機運を高めるための記念イベントを開催し、平和の取組を生み出すプラットフォーム広島の形成を促進（2019～2021年度）